

## 学会プロジェクト研究

### 「アジア・エリアにおける『持続可能な未来』のための環境教育とネットワークの構築」

本プロジェクト研究では、環境保全、平和・人権、健康・福祉、予防・衛生、多文化共生、国際理解などESDの環境教育に関して、日本、中国、タイ、ネパール、マレーシアの地域研究を行ない、環境教育のアジア・ネットワークを構築する。

これらのテーマを扱う環境教育によるアジア・エリアの「持続可能な未来」について興味のある学会員の方々は是非御参加をお願い致します。

本プロジェクト研究は「持続可能な未来の教育」をベースにしながら、環境保全、平和・人権、健康・福祉、予防・衛生、多文化共生、国際理解などを主題とすし、第一年度（2008年度）は、全国大会「プロジェクト研究」発表会にて松田聡氏（アジア眼科医療協力会・ESD神戸・NPO法人兵庫県ネイチャーゲーム協会）から「ESDの視点からみたネパール眼科医療援助」を、川嶋宗継氏（滋賀大学）から「チェンマイ（タイ）における環境教育の実践」を報告いただき、谷口（本プロジェクト代表）が「アジア・エリアにおける『持続可能な未来』のための環境教育とネットワークの構築」として全体の取りまとめを行なった。また、本プロジェクトの三本の柱である「衣・食・住」に関する研究会を第17回関西支部研究大会（2008/12/21、畿央大学）にて、タイ・プラナコーン大学のチナタ・ナガシン八氏を交えて開催した。

第二年度（2009年度）は、ネットワークをアジアの各地域に広げ、内容としては衣食住をベースとしたモデル・プログラムおよび教材の開発、特に「衣」の側面として“服育”をテーマとする研究をおこない、また「食」および「住」の側面として人間の生活廃棄物、特にトイレからでてくるものを有機肥料にするための工夫、すなわち持続可能な社会を形成するための適切なローテクノロジーに関する研究を行なう予定である。

このような研究成果を踏まえて、第三年度（2010年度）には、さらにネットワークを広げ、日本、中国、タイ、ネパール、マレーシアとの学術交流をおこないながら、特にネパールのカトマンズ大学、マレーシア・マラヤ大学との研究会、日中韓のプロジェクト研究や他のプロジェクト研究とのコンビネーションによって国際的な学会活動の推進を目指し、最終的な成果を共有するために、本学会において国際会議を開催する予定である。

このような三カ年の成果としては、日本をフォーカル・ポイントとして、中国、タイ、ネパール、マレーシア地域に「持続可能な未来」のための環境教育のネットワークを広げていく。そして各大学との関連をもつ学校や教育機関の情報を収集する。さらに、国際会議や研究会をもち、情報交換をするとともに成果を発表する。学会としても、こうしたネットワークによってESDの諸テーマをも含めた環境教育を推進することが必要であると考えられる。

なお、本プロジェクト研究のメンバーは、関西支部の会員が中心となっているが、本学会員で興味のおありの方は是非とも御参加をお願いいたく考えております。

（プロジェクト研究代表 谷口文章）

「アジア・エリアにおける『持続可能な未来』のための環境教育とネットワークの構築」

### スケジュール

- 9:00            2008年度のネットワーク構築の報告  
|                谷口文章(プロジェクト代表)
- 9:15            「持続可能な社会のための『服育』」  
|                前田良治氏、有吉直美氏(株式会社チクマ)
- 10:00           「アジア地域における、人間の排泄物を有機肥料にするための  
|                『トイレの開発と普及』」清水芳久氏(京都大学)
- 10:45           「タイにおける持続可能な社会のための教育」  
|                チナタ・ナガシンハ氏(タイ・プラナコン大学)(IP中継)
- 11:30           総合討論(フロアを交えて)  
|                「今後の方向性の検討」
- 12:00           閉会